



GREEN LETTER

グリーンレター

Vol. 291

2021/06/01

今月の一枚

今月のイベント

参加者募集

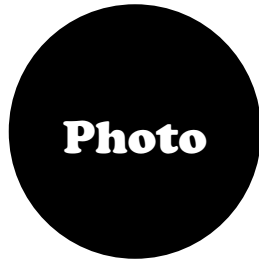
GREEN COLUMN

01. 戦時中の風景

02. バイカル湖のカジカ



今月の一枚



「春の博物館」

表紙写真・文／八重柏誠

博物館がある美幌みどりの村では、毎年、桜の開花予想クイズをやっています。今年の開花は4月29日ということで、記録的な早さの開花となりました。

5月上旬には、博物館周辺が桜色に染まる光景を見ることができました。

Event. 今月のイベント

特別展「びほろのアケボノ～旧石器時代の遺跡～」 ～ 10月24日（日）

プチ工房「キャンドルホルダー」 6月4日（金）, 5日（土）

「草花を活けてみよう」 6月12日（土）

Information. 参加者募集

「草花を活けてみよう」

● 6/12 (土) 9:30-12:30 ● 美幌博物館 1F 講座室 ● 材料費 600 円, 汚れてもよい服装, 持ち帰り用の風呂敷や紙袋など, マスク ● 小川季紅 (草月流北海道支部) ● 美幌博物館へ電話申込み (-6/11)。高校生～一般 8 名で締切。

親子で野外体験「縄文火起こしデイキャンプ」

● 7/10 (土) 9:30-12:30 ● 美幌みどりの村森林公園キャンプ場 (集合は管理棟) ● 1 組 500 円, 野外で活動できる服装, 軍手, 飲み物, カップ上下, マスク ● 八重柏誠 (美幌博物館), 水戸穂澄・大津直紀 (美幌みどりの村振興公社) ● 美幌博物館へ電話申込み (-7/7)。幼児を含む親子 5 組で締切。

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため, 発熱がある, あるいは体調が優れない方のご参加はお控えください。各イベントは, 内容の変更や中止となる場合がございます。また状況により, 一時休館となることもございます。事前にお電話でお問い合わせの上, ご参加ください。

今月の休館日

7 日, 14 日
21 日, 28 日

〈凡例〉 ●日時 ●場所 ●費用, 持ち物 ●講師 ●申込み方法

01 GREEN COLUMN グリーンコラム

戦時中の 風景

写真／美幌博物館蔵・文／八重柏誠



先日、博物館講座「戦中の美幌の歴史発掘」において、未公開の映像資料を紹介する機会がありました。資料は、戦前・戦中に撮影された9.5mmフィルムです。この規格のフィルムは大正時代の終わり頃に日本に伝わり、昭和初期には一般にも広く普及しました。戦後、8mmフィルムが普及したことから、9.5mmフィルムは廃れていきましたが、当時の人々の様子をうかがい知る上で、とても貴重な歴史資料と言えます。

博物館では、フィルムをデジタルデータに変換する作業を続けており、今回はその成果の一部を紹介することができました。野球やスキーなどのスポーツを楽しむ様子や町を行き交う人々のありふれた光景、戦時中の出来事など様々なシーンが時を越えて蘇りました。

講座で取り上げた戦時中の出来事の

中に馬や鉄製品の供出があります。当時の美幌町民にとって、^{ぼんしょう}梵鐘の供出は衝撃的な出来事だったと記録されていました。当時を知る人々によると、梵鐘は町のシンボルとも言えるような存在で、それが失われるのはとても悲しい出来事だったと証言しています。フィルムには、昭和17年に観照寺の梵鐘を供出した際の様子が撮影されていました。梵鐘を乗せた台車には、とても長い綱が繋がっており、それを老若男女数百人の人々によって引いていく様子が記録されていました。町内の寺院から梵鐘が供出されていたのは知られていましたが、9.5mmフィルムによって、梵鐘を町民総出で運んでいた様子が新たにわかったのです。

戦前・戦中の記憶は、今まさに風化していく最中と言えるかもしれません。このような動画の記録は大切にしていきたいと思います。

バイカル湖の カジカ

写真・文／町田善康



バイカル湖は、ロシア南東部に位置し、約3千万年前からある世界最古の淡水湖です。南北640キロ、東西80km、水深は1600mもあり、地球上の淡水量の20%をたたえていると言われています。そしてなにより、バイカルアザラシをはじめ、世界中でバイカル湖でしか見られない生き物（固有種）が多く生息しています。

さて、バイカル湖のカジカの仲間は、周辺の川に住むごくごく普通の種類が、広くて深いバイカル湖の環境に適応し、多種多様な種類に進化しました（専門用語で適応放散と言います）。

その中でも、写真を掲載したゴロミャンカ（*Comephorus baikalensis*）は、バイカル湖を代表するカジカの仲間ですが、細長い体に、長い胸^{むな}鰭、カジカであるとは思えない姿です。さらに驚くべきは、その生態。そもそも、

カジカの仲間は浮袋を持たないため、水に浮いて泳ぐことが不得意です。でも、ゴロミャンカは広いバイカル湖の環境を活かすため、体の大部分を油分で満たすこと（約40%が油）で、体を浮かせ、長い胸鰭を使って泳ぎ、浮遊生活をします。実際、彼らは湖全域で見られ、水深も100～1600mと広い範囲を利用します。また、普通のカジカは、石の裏側や川底などに卵を産みますが、ゴロミャンカは胎生です（グッピーのように稚魚を産む）。近年の遺伝子を使った研究から、これらの特徴は、ゴロミャンカの祖先がバイカル湖にやってきた後、短期間に獲得されたことがわかっています。

この貴重なバイカル湖の魚類標本は、夏に行うロビー展で、皆さんに見て頂こうと思っています。

【発行】

美幌博物館

【デザイン・編集】

城坂結実

【お問い合わせ先】

美幌博物館

北海道網走郡美幌町字みどり 253 - 4

Tel / 0152 (72) 2160 Fax / 0152 (72) 2162

mail / museum@town.bihoro.hokkaido.jp

<http://www.town.bihoro.hokkaido.jp/bunya/museum/>

無断掲載・転載を禁ずる

学芸員のつぶやき



春から美幌町内で新発見が連続しています。加えて、講師依頼もたくさんお話をいただいております、今年度も忙しくなりそうです。毎年、少しはセーブしたいと思いますが、結局知りたい気持ち・伝えたい気持ちが強くて、また新たな取り組みにチャレンジしてしまいます。(町田)